見初地域づくり計画

― 自立した地域マネジメントで明日（あす）の見初を ―

令和4年（2022年）度版

（平成28年(2016年)度策定　令和4年(2022年)度改定）

見初地域づくり協議会

（ホームページ　https://mizome.jimdofree.com）

目　次

1　はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

2　地区の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

3　計画策定時での課題と振返り　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2

4　これからの主な課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3

5　地区の将来像　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　6

6　地域づくり協議会を中心にした地区将来像の具現化・・・・・・・・・・・・・　7

7　地域づくり協議会の具体的な事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　7
（1）地域づくり協議会主催事業
（2）専門部会
（3）プロジェクト関係

8　地域づくり協議会組織図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　8

《参考①》地区の各種データー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　9
《参考②》地域づくり協議会の発足と変遷・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　10～12

1　はじめに

宇部市は令和４年(2022 年)度から第五次宇部市総合計画（前期・令和４年度～８年度）を策定し実施段階に入りました。

そこでは、宇部市の将来都市像を「ひとが輝き　交流ひろがる　わたしたちの宇部（まち）～共存同栄の精神（こころ）を未来につないで～」としています。

これを達成するためには、物理的な側面の成長だけではなく、住民個々の成長も求められます。そのためには、行政の頑張りと同時に地区の頑張りも必要となるでしょう。

見初地域づくり協議会は、ある意味「自分たちでできることは自分たちで行う」ということを意識して５年前に発足しました。

この間、私達は、状況に応じた規約の改正、地区内外団体の連携の強化、物事は会議で決める（色々な人の意見を取り入れながら決める）、児童・生徒も地区の構成員として考え、学校との一層の連携の強化、各団体が対応できない課題解決のためのプロジェクトの設置等、色々な取組みを行ってきました。

このように、平成２９年(2017 年度)から令和３(2021 年)年度までの５年間、変化する社会やそれに伴う価値観の変化をみつめながら活動してきました。

ここで、この５年間で得たこと、積み残してきていること等を整理し、今日までの「見初地域づくり計画」を基礎にして、宇部市の「五次総」を受け、これを改定したいと思います。

策定時の地域づくり協議会会長のコメントに、「見初校区が『オールみぞめ』で困難な課題に真正面から立ち向かい、未来を生きる世代のため、人口減少に負けない様々な取組みを地域づくりの柱として」とありますので、このことを踏まえ、今後の地域づくりを設計していきたいと思います。

2　地区の概要

見初地区は宇部市の南東部に位置し、市街地の東玄関として、さらには東部臨海工業地帯の中心地として発展してきました。地域を縦断している松山通り（国道 190 号線）は幅 36mで、周辺部に商業地域、西側には工業地域が広がっています。面積は 2.00 ㎢です。明治期から海岸付近の炭鉱とともに地域が栄えましたが、太平洋戦争中に空襲被害を受け焼け野原となり、戦後、そこに復興のシンボルとして松山通りが建設され、昭和 36 年（1961 年）には道の中央部分にフェニックスが植樹されました。昭和 40 年代には日本のエネルギー改革により、周辺の炭鉱が次々と閉山し、徐々に活気が失われていき、栄えていた商店街もすたれ、現在は商店街の面影はありません。

現在は、生活インフラはある程度充実しているが、高齢化率が高く、少子化も進んでいます。また、スーパーは無く、空き地や空き家の増加など課題もあります。

そして、市内 24 地区の中でも小規模の地区ですが、地区内には自然もなく、他地区に誇れる伝統的な建造物もありません。

しかし、子どもを中心としてまとまっていく、という点に於いては昔から様々な実

績があります。小学校前の陸橋の建設、給食の脱脂粉乳から牛乳への転換、交差点の信号の設置、暴力団事務所の排除、成人向け雑誌の自動販売機の撤去等を、市内でも早期に実現するなどの事実が伝えられています。

令和４年（2022年）４月１日現在の人口は３，１８９人、世帯数は１，８４３世帯で、平成２９年度当初から人口が２．７％、世帯数が８．１％減少しています。現在でも、空き家や駐車場の増加等人口減少の要因が増え、児童数の減少も続いています。その中で、市営住宅の建替え、新築の家の少しずつの増加等、かすかな明るい要因もあります。

３　計画策定時での課題と振返り

計画策定時での課題	振返り
（１）　当地域は、高齢化が進んでいます。地域での高齢者対象事業の充実化と同時に、子育て世代の定住の増加の取り組みが必要となってきます。	参考データをみてもわかるように、高齢化率は一層高くなって市全域と比較して高齢化率が約10%、後期高齢化率が約6%高い状況です。このことはある意味では、長生きしている人が多いということで、めでたいことですが、問題は、若い世代及び「子育て世代」の定住増加するかであり、その問題をどのようにしていくのかが今後の課題といえます。 また、一人暮らしの高齢者世帯もR2国勢調査では宇部市10,685世帯(14.8%)で、見初地区はさらに高い比率と思われます。
（２）　子どもの健全育成について、熱心に取り組んでいます。子ども達の「地域で育つ」という実感をより育み、より充実した取り組みを継続していくことが必要になってきます。	このことは見初地区の誇れることだと考えています。小・中学校は比較的落ち着いているし、授業・行事も充実し、令和４年度の全国学力テストでは国平均値を上回っています。子ども達も地域活動に積極的に参画しており、これは今後とも継続させていかなければなりません。
（３）　「生活」という観点から見初校区を見てみると、学校、銀行、病院、交通関係等、生活に「必要」な施設等は揃っていますが、生活必需品の購入などに関しては、コンビニはありますが、スーパーが無いなどの不十分さがあります。「生活」という観点から施設等を見直し、「無い」施設	この課題を支えあい会議で、「買い物困難者」と名付け対応してきました。従来からの個人営業の移動販売車に加えて、コープの「おひさま号」、フジの「おまかせくん」、丸喜の「とくし丸」の移動販売車が地区内に販売に来ています。 また、コープによる買物送迎車や、グリーンコープやコープの宅配サービスも展開

等は誘致するなどの取り組みが必要です。	されています。
（４）　空き地や空き家などが増加傾向にあります。防犯や防災の観点からも対処して行くことが必要です。	この課題にはあまり前進が見られません。地主との関係等色々な問題が絡み合い、地区だけでは問題を解決できません。しかし、市の関係部署と連携して解決していかなければなりません。 宇部市の空き家率は16.4%(「平成30年住宅・土地統計」から)で、見初地区を含む宇部市東部市街地域では空き家が増加傾向にあります。(「第２次宇部市空き家等対策計画(R3.4)」から)
（５）　海岸沿いに立地していることから、地震による津波や風水害の影響が懸念されます。地区防災計画や学校等と連携した防災訓練などを通じて、防災意識を高める必要があります。	自主防災会を中心に防災に関しては一歩も二歩も前進しており、定期的に研修会が開催され防災に関する認識等も深まっています。また、防災備品も以前と比較すれば充実しています。
（６）　住み慣れた地域の力の強化・推進のため、地域運営組織について自治会連合会をコアとした組織に改変し、取り組む必要があります。	この課題に関しては、地域づくり協議会を発足させ、この会を中心に各団体が連携しながら動き出しています。

４　これからの主な課題

（１）独居高齢者及び高齢者家族の生活の充実

宇部市の高齢化率は令和４年（2022年）４月１日時点で33.6%ですが、見初地区はそれよりも10%高い状況です。宇部市全体よりも切実な問題だといえます。

この課題は、「第５次宇部市総合計画（前期）４－５」にある「高齢者福祉の充実」でもあります。これは、地域での支え合う関係づくりというものが重要になってくる のではないでしょうか。

この課題の解決を地区レベルで考えれば、独居高齢者の引きこもり、コミュニケーションの拒否、高齢者家族の介護（認知症介護含む）による疲弊の問題があります。

そして、この課題が大きな問題に発展する場合は、根底に「迷惑をかけてはいけない」という価値観のもとでの「孤立」、コミュニケーションの取り方が分からないための「孤立」等様々な問題が根底にあります。そのようなことも視野に入れながら「支えあう地区」を創り上げていくことが必要でしょう。

そのためにも、良い意味で「迷惑をかけ合う」ということが当たり前であるという価値観を様々な世代に浸透させていくということも重要になってくるのではないでしょうか。

（2）子育て世代定住者の増加

「第５次宇部市総合計画（前期）　３－５」にもあるように、この課題は宇部市全体の課題でもあります。「うべ暮らしの魅力発信」と計画にあるように、住む場所の魅力がやはり第一に必要になってくるでしょう。

見初地区に関して言えば、ファミリー層が求めるような宅地の地価が高い、新居を建てる空き地が少ない、小学校が小規模故の子育て世代が居住しない等、様々な要因があります。これらを視野に入れて、「見初だから住みたい」、「少々地価が高くても見初に住む」という思いになるような地区にしていきたいものです。

そのためには、地区に居住している私たち自身も「見初の魅力」について深く考え、その魅力を発信していくことを検討していきたいと思います。

（3）子ども・高齢者・子育て世代・地区住民の「たまり場」の充実

「第５次宇部市総合計画（前期）４－４」に あるように心通う地域福祉の充実はとても重要です。

そのためには「物理的な居場所」とともに「精神的な居場所」というものがとても重要な要素になるでしょう。

居場所があることによって人が集い、そこに様々な情報がもたらされます。そして、様々な教育・福祉的課題が表面化してきます。

そのためにも、地区の中に自分の家（児童・生徒に関しては学校も）以外に「居場所がある」ということはとても大切なことです。かつて、まだまだ空き地に住民が入ってたむろしても問題にならなかった時代は、それは至る所にありました。そのような状況を、21 世紀版としてよみがえらせ、「地区の中のたまり場」を創っていくことがこれからの時代必要でしょう。

現在の見初ふれあいセンターは小学校敷地内への移転、新築がされる予定で、令和７年度供用開始に向けてこれから設計や工事が進みます。新しい「見初ふれあいセンター」でもそれを継続したいと考えています。

（4）買い物困難者対策

「第５次宇部市総合計画（前期）４－４、4－5」に関しても、行政に任せるだけではなく、地区の独自の動きも必要であろう。

この課題に関しては、現在までも取り組んできたがまだまだ充分ではありません。買物は必要な物を買うというだけではなく、買わなくても眺めて回ることも重要な要素です。人は何かをするときに楽しさを感じなければ、充実にはつながっていきません。

現在まで、移動販売など買物支援事業は増加しましたが、「いつでも、どこでも、誰でも、必要なときに買える」という状況ではない。そのためには上記の事が実現できるように取り組んでいくことが必要ではないでしょうか。

（5）空き地や空き家対策

「第５次宇部市総合計画（前期）５－５」にもあります「空き家対策」は見初地区にとっても非常に重要な問題です。

空き家や空き地の増加は、防犯上及び環境美化の上でも重要な事です。地区単独では難しい面が多いので、市等の公共団体の関係部署と連携しながら、互いが知恵を出し合い取り組んでいきたいと考えています。

（6）地区各団体の役員後継者問題

この課題は「第５次宇部市総合計画（前期）５－１」にもあるように、見初地区だけの問題でなく、宇部市全体、日本全体の問題でもあります。

この問題の要因には？ 単に？ 役員になりたくないとかそのような。個人的な問題だけでなく、今日まで役を担ってきた商店主、また、定年退職した人たちの生活状況の変化そして、現役世代の労働上の変化等を考えることができます。

課題を解決するにはとても難しい問題が横たわっています。しかし「だから無理だ」ではなく、地区の皆で知恵を出し合いながら解決策を探っていきたいものです。

（7）児童・生徒が地区の構成員として地域の活動に参加できる状況を創る

この課題は、「第５次宇部市総合計画（前期）２」のみでなく「第５次宇部市総合計画（前期）５－１」の課題でもあります。

子ども達は地区に住んでいます。つまり、地区の様々な事業の展開に子ども達は直接関わってくるということです。つまり、行事の「お手伝い」ではなく、「地区の構成員」という立場で子ども達に関わってもらうことがある意味当たり前ということになります。

そのためには、「子ども達は地区の構成員」という考えを定着させることが肝要になります。これは大人だけではなく、子ども達にもおいても同様です。この点を踏まえて体制を整えていくことが必要です。

（8）地域猫等の動物と共存する地区づくり

「第５次宇部市総合計画（前期）」に関連させれば、「２」であり「４－１」であり、「４－４」であり「５－５」でしょう。

野良猫等動物の問題は色々とありますが、それら解決するためには、他地区で実際に具現化している「共存した街」です。それは「命の大切さ」をベースに色々と考え、「気持ちよく生活できる地区」づくりを目指す必要があります。

（9）文化・芸術・スポーツが豊かに存在する地区

「第５次宇部市総合計画（前期）　３－３　３－４」を具現化するためには、文化・芸術・スポーツを広めていくというだけではなく、それが人にとって、どのような意味をもたらすのかということも、私たちは考えていくことが必要です。

人の歴史を振り返れば、文化・芸術・スポーツ等は「生きる」に直結しませんが、「よりよく生きる」ということでは非常に重要なものになります。

つまり、人が生きるということは、「栄養を摂取し、働き、寝る」だけではありません。文化・芸術・スポーツと豊かにかかわることで「人らしく生きる」ことができます。そのためには、学校とも連携しながら、文化・芸術・スポーツの日常化をすすめていきます。

(10) 環境美化の進んだ地区

「第５次宇部市総合計画（前期）５－７」に宇部市でも課題としてあげられているように、「緑地空間」は地区の活力にとってとても重要な要因です。

見初地区には「自然」がない。これはどうしようもないことですが、物理的に「気持の良い地区」という観点から考えれば色々と解決することができる課題も見えてきます。

小学校の緑をどのように地区として活かしていくか等、様々な方策を見つけるために、互いの意見を出し合いながら今以上の「住みよい街」づくりをすすめていきます。

５　地区の将来像

将来像を一言で書けば、「わいわいがやがや　子どもと大人が共に創る『豊かな生活』をおくる　みぞめ」これは、最初に計画を作成した時から変化していません。

さらに具体的に記述すれば、以下の地域づくり協議会規約第２条の目的となります。

「本会は住民がお互いに支え合い、『自分の校区は自分たちで住みよい街』を構築していくために『わいわいがやがや』とお互いの知恵を出し合いながら『楽しく豊かな生活』ができる『みぞめ』の創造をめざし、心豊かで活力と笑顔に満ちた住みよい地域づくりをめざす。」

ここでのキーワードは、「わいわいがやがや」です。簡潔に記述すれば、「『熟議』しながらものごとをすすめていく」ということです。

「熟議」とは形式ではありません。「熟議」とは多様な価値観を認め合い、互いが自己表現しながら「容」をつくっていく、ということです。

そこには、他者を認める力、聴く力、話す力、検討する力、方向性を見失わない力、等の人間としての資質・能力が必要とされます。

そのためには、「みんなで育ち合う」、ということを楽しみながら行うことが大切

になってきます。

人は一人では生きられない、地区の生活は肩の力を抜いて生きる場所、一人ひとり違うから面白い、等、当たり前のことを当たり前と素直に受け止めながら生活できる場所として、地区が成り立つことが、私達が楽しく・豊かに生きることができると考えています。

６　地域づくり協議会を中心にした地区将来像の具現化

見初地区は、地域づくり協議会を中心にして、各団体が連携し、地区の課題解決の取組みを進めながら、地区将来像に少しでも近づくように行動していく。

そのために、４つの部会と２つのプロジェクトを設置し、地域づくり協議会役員（会長・副会長・部長・副部長・監査・事務局長・次長）が軸となり物事をすすめていく。

７　地域づくり協議会の具体的な事業

（１）　地域づくり協議会主催事業

総　　会	：　４月
合同運動会	：　５月
慰霊盆踊り・夏まつり	：　８月
区民芸能文化祭	：１０月
どんど焼き	：　１月
レコードCafé	：奇数月の第三土曜日
支えあい会議	：奇数月に１回開催
資源ごみ回収事業	：毎月１回開催
三役会議、役員会	：基本的に、毎月１回開催

＊上記以外にも様々な行事が実施されており、詳細は見初地域づくり協議会のホームページでも確認できます。

（２）専門部会

①次世代育成部会
②健康福祉部会
③文化・芸術・スポーツ部会
④快適環境づくり部会

（３）プロジェクト関係

①新生活様式プロジェクト
②早期対応プロジェクト

見初地域づくり協議会組織図（令和４年（2022年）４月現在）

会長 ―― 事務局

副会長

地域連携・活性化の推進

① 地域の現状や課題を明確にする
② 地域の将来計画を検討し、計画に基づいた実施案を作成し、活動の中心となる。
③ 役員等の研修計画を作成し実施する。

＜柱１＞ 次世代育成部会

部長・副部長

〇学校と連携し「やまぐち型地域連携教育」を視野に入れ、子どもや大人の「学び・育ち」や「次世代育成」などを中心とした計画立案・活動を行う。また、「生涯学習」や「将来像」を「容」づくる「学び」の計画立案・活動も行う

- 自治会連合会
- 子ども委員会
- 人権教育推進委員会
- 母親クラブ
- ふれあい運動推進員会
- 社会教育推進委員会
- 見初小学校育友会
- 神原中学校 PTA
- 神原中学校
- 民生・児童委員協議会
- おーるうぇーず

＜柱２＞ 健康・福祉部会

部長・副部長

〇健康づくり・福祉関係等の計画立案・活動を行う

- 自治会連合会
- 社会福祉協議会
- ボランティア見初
- 民生・児童委員協議会
- 母子保健推進員会
- 保護司会
- むべの里

＜柱３＞ 文化・芸術・スポーツ部会

部長・副部長

〇文化・芸術・スポーツ等の関係の計画立案・活動を行う

- 自治会連合会
- スポーツ振興委員協議会
- 体育施設開放運営委員会
- センターで行われている自主運営教室等

＜柱４＞ 快適環境づくり部会

部長・副部長

〇安全・安心に関わる防犯、防災、交通安全に関することや、快適な環境づくりに関係する計画立案・活動を行う

- 自治会連合会
- 環衛連見初支部
- 交通安全推進委員会
- 自主防災会
- ふれあい親和会
- 見守り隊
- 見初防災会
- 防犯連絡所指導員協議会

＜柱５＞ プロジェクト

部長・副部長

- 新生活様式プロジェクト
- 早期対応プロジェクト

※自治会長は福祉委員を兼ねています。

《参考①》地区の各種データー

年度	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
① 世帯数	1, 922	1, 894	1, 868	1, 880	1, 874	1, 850	1, 843
人口	3, 538	3, 470	3, 394	3, 397	3, 342	3, 246	3, 189
男	1, 644	1, 628	1, 604	1, 596	1, 569	1, 529	1, 499
女	1, 894	1, 842	1, 790	1, 801	1, 773	1, 717	1, 690
② 高齢者数	1, 405	1, 397	1, 384	1, 381	1, 375	1, 382	1, 358
高齢化率 ( )宇部市	39. 7 (30. 8)	40. 3 (31. 5)	40. 8 (32. 2)	40. 7 (32. 7)	41. 1 (33. 1)	42. 3 (33. 4)	42. 6 (33. 6)
後期高齢者数	755	756	765	773	758	759	765
後期高齢化率( )宇部市	21. 3 (15. 0)	21. 8 (15. 6)	22. 5 (16. 1)	22. 8 (16. 6)	22. 7 (16. 9)	23. 4 (17. 0)	24. 0 (17. 7)
③ 児童数	113	108	101	96	97	98	104
入学者数	21	15	12	17	16	20	17

【出典】

① 住民基本台帳　毎年４月１日現在

② 高齢者＝65 歳以上、後期高齢者＝75 歳以上

③ 見初小学校学校要覧　　毎年５月１日現在

《参考②》　地域づくり協議会の発足と変遷

見初地域づくり協議会は、平成２９年(2017年)5月19日、「見初コミュニティ推進協議会」を発展的に解消して発足した。それから５年間、定例化している行事を実施しつつ、地区の様々な課題を顕在化させ、少しずつ課題解決に活動してきた。

発足までの経緯の詳細は以下の通りである。

<table>
<tr><th>年度</th><th colspan="2">具体的な活動内容</th></tr>
<tr><td>H27
(2015)</td><td colspan="2" rowspan="2">2015年7月以降「見初小学校・神原小学校統合問題」に関して見初校区民全体を対象にした懇談会が実施されるようになった。しかし、この懇談会を「誰が」、「どの団体が」呼びかけるのかが常に疑問が持たれたまま、時間が経過した。最初は、「見初校区自治連合会」であったが、その後「見初校区コミュニティ推進協議会」となった。しかし、懇談会の中心となっていたのは、「統合準備協議会」の見初の委員であった。この不十分さを自治連会長・コミュニティ会長が地域課と相談する中で、宇部市が進めている「地域づくり協議会」のことが提案された。それを「小学校統合問題の校区懇談会」を進めていた中心メンバーが受け入れ、以下のような動きとなった。</td></tr>
<tr><td rowspan="8">H28
(2016)</td></tr>
<tr><td>8月19日</td><td>各団体の役員に、宇部市地域課より「地域づくり協議会」の説明がなされた。それを校区で受け入れるか検討し、見初校区として受け入れることにした。</td></tr>
<tr><td>9月　8日</td><td>数名のメンバーが集まり9月15日の準備のため、当日の内容等を検討</td></tr>
<tr><td>9月15日</td><td>「見初校区コミュニティ推進協議会」役員を含む、各団体役員等の出席の下、「見初地域づくり協議会」の発足が提案され了承される。同時に、発足に必要な体制・規約等の検討をするため、準備委員を選出した。</td></tr>
<tr><td colspan="2">この間、準備委員相互が、役員や今後必要な動き等を検討し、それぞれが準備を行った。</td></tr>
<tr><td>12月12日</td><td>準備委員会の開催。発足総会の日程の検討、それまでに、準備することの検討を行った。また、将来像や体制等を提案する小グループと規約を提案する小グループをつくり、次回までに小グループに分かれて「案の作成」を行うことにした。</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">この間、「将来像・体制等検討グループ」と「規約検討グループ」がグループ毎に集まり、23日に提案する内容をまとめる作業を行った。</td></tr>
<tr><td rowspan="6">H29
(2017)</td></tr>
<tr><td>1月23日</td><td>準備委員会において「見初地域づくり協議会」の将来像、体制、規約、役員の在り方等の検討を行う</td></tr>
<tr><td>2月13日</td><td>準備委員会において規約等の検討を行う</td></tr>
<tr><td>2月17日</td><td>見初小学校・神原小学校統合問題の「見初校区意見交換会」において、「見初地域づくり協議会」のことを説明する</td></tr>
<tr><td>3月17日</td><td>各団体役員において、年間の事業計画の調整を行う</td></tr>
<tr><td>3月27日</td><td>準備委員会において予算案・事業計画の基本的在り方等を検討</td></tr>
<tr><td>4月12日</td><td>・「見初校区コミュニティ推進協議会」役員会においてコミュニ</td></tr>
</table>

		ティを発展的に解消し、「見初地域づくり協議会」の発足を総会にかけることが了承される。 ・「見初地域づくり協議会」の規約・体制・活動内容等を、「見初校区コミュニティ推進協議会」役員及び「見初地域づくり協議会」準備委員で検討する ・各団体からの役員選出及び各部の部部長・副部長の検討等を行う
	4月19日	発足総会の議事次第・予算案・事業計画の基本的在り方等を検討
	5月　2日	「見初校区コミュニティ推進協議会」会長・センター館長を含む数名で、5月8日の議題等の内容の検討を行う
	5月　8日	準備委員にて発足総会の次第・資料の検討を行う

また、その後の5年間の変遷を総会資料等を参考に簡潔に以下にまとめる。

年度	取組み内容
H29 (2017)	・見初小学校・神原小学校統合の件を、見初地域づくり協議会役が中心となり地区民の意見をとりまとめ、市と話し合いをすすめる。 ・運動会を「小学校・地域合同運動会」として開催。同時に次年度以降の開催のあり方を検討。 ・「区民芸能文化祭」を再び小学校で開催。同時に次年度以降の開催の在り方を検討。 ・常安寺サロンを開始。 ・国民健康保険加入者の「特定健康診査」受診率の向上の取組みを、宇部市地域・保健福祉支援チームと連携して取り組む。 ・宇部市地域創生助成金の地区各団体への配分の在り方の検討を始める
H30 (2018)	・小学校・地域合同運動会の在り方について、小学校育友会、学校、地域づくりの三者で検討し、運動会を開催。 ・各自治会からの各団体及び行事への会費を、地域づくり協議会への会費に1本化した。一世帯当たり800円で、自治会連合会が会費徴収を行うことにした。 ・市主催の「健康アカデミー」に参加し、見初地区の「健康プラン」の実際を「健康・福祉部会」として取り組む。 ・「支えあい会議」を発足。 ・地区民全体を対象とする行事は地域づくり協議会が主催することにした。2019年度は、区民芸能文化祭、合同運動会を主催とした。 ・地区外の団体との連携の充実を図ることを開始。 ・部会内の各団体の連携の充実を図ることを検討。 ・地域づくり協議会からの地区内の各団体への助成金配分のシステムを、「申請方式」にし、申請書類の種類、申請書・事業報告・決算、事業計画案・予算案とする。 ・地区内各団体の役員研修会の充実を図る動きが顕著となる。 ・財政収入増加を目的に、資源ごみ改修事業を開始。
R1 (2019)	・規約を改正し、「会員」の明確化、「会員の権利と義務」の明記、会議の種類等の修正を行う。 ・各団体への地域づくり協議会からの助成金額案を確定するとき、各団体の代表者と地域づくり協議会三役で直接話し合い決めることにした。

	・小学校・地域合同運動会の在り方を、見初小学校学校運営協議会主催で、学校・育友会・地域で話し合いながら実施した。 ・盆踊り（慰霊祭は社協）を地域づくり協議会の主催行事とした。 ・「ふれあいセンター使用有料化」にともなう在り方を検討。 ・地区外の団体との連携充実のため、宇部市地域・保健福祉支援チーム、南部第2高齢者総合相談センター、宇部市社会福祉協議会の各見初担当者との情報交換会を月1回開催を開始。 ・40区自治会公会堂で実施の「健康づくり教室」を地域づくり協議会として承認。 ・地域づくり協議会の総会日程を4月に開催し、地区内各団体はそれ以後に開催することを決める。 ・「独居高齢者の引きこもり」対策としての「レコードCafe」開催 ・「支えあい会議」定例化。 ・自主防主催で、地区内での防災訓練が本格的に実施開始。
R2 (2020)	・「新型コロナ」問題で多くの行事が中止となった。 ・地域づくり協議会等各団体の総会は書面議決となった。 ・小学校・地域合同運動会を学校からの依頼で、5月開催とした。 ・8月実施していた「盆踊り」を「夏まつり」に名称変更。 ・しめ縄づくり・餅つき及びどんど焼きを地域づくり協議会主催行事とした。 ・「見初だより」の書式や内容を大幅に変更。 ・自治連で「自治会再編成」の検討を始める。 ・「新生活様式プロジェクト」を立ち上げ、市の「新生活様式」助成金の申請を行い、50万円の助成を得た。それにより、ふれあいセンターのWi-Fiシステムを構築、大型画面テレビ購入等行った。 ・旧ソーダ引き込み線跡地利用を検討したが、良い案出ず。 ・副会長を2名から3名に改正。 ・生協の移動販売開始。 ・地域づくり協議会のホームページ「みぞめ」を開設。
R3 (2021)	・「新型コロナ」問題で多くの行事が中止となった。 ・「新生活様式プロジェクト」の協力の下、地域づくり協議会総会をYouTube配信で開催した。 ・「校区」を「地区」に変更。 ・監事の選出規程を規約に明記。 ・地域づくり協議会の旅費規程を作成。 ・事務局の体制の強化のため、事務局次長を設置。 ・「早期対応プロジェクト」を設置。 ・区民芸能文化祭を実行委員会形式で開催。 ・中学生の地域への参加の検討を本格的に開始。 ・「スーパーフジ」の「移動販売車（おまかせくん）」開始 ・「スパーまるき」の「移動販売車（とくし丸）」開始。 ・自主防の備品、テント等、地区の様々な備品を小学校の協力の下、学校の空き倉庫等に移動。 ・「新生活様式プロジェクト」を中心に、地区内にIT機器の知識や技能向上に取り組む。 ・地域づくり協議会ホームページ「みぞめ」に、YouTube チャンネルを開設。